

# 全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

URL [http:// www.kahaku. go. jp/JCSM/index. html](http://www.kahaku.go.jp/JCSM/index.html)

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成9年3月15日発行(通巻第153号)

## 平成8年度第2回総会及び第4回研究発表大会開催 —鳥羽水族館を会場に—

平成9年3月5日(水)、三重県鳥羽市の鳥羽水族館において、平成8年度第2回全科協理事会及び総会が開催されました。

総会の出席館は70館、委任状提出館は116館で、審議の結果、平成9年度事業計画(案)及び平成9年度収支予算(案)並びに平成8年度予算の補正(案)について承認されました。

これによって、平成9年度は、研修事業の充実や連携促進事業として、引き続き「共同企画展等調査研究」を実施し、「科学系博物館における標本データベースの標準化に関する調査研究」では新たに理工系の部会を設置することなどが決定し、また、平成9年度で第14回目の実施になる「海外科学系博物館視察研修」は平成10年1月中旬の実施予定で、今回は、初めてオーストラリア・ニュージーランドの科学系博物館を重点的に視察することが決まりました。

以上のことなど平成9年度第2回全科協理事会及び総会に諮られ承認されました主な内容を紹介します。

### 加盟館園の状況

#### 1. 館園数

平成9年3月5日現在

区 分	平成8年 第1回総会時	平成9年 3月5日現在	内 訳		増減
			入会	退会	
正会員	227	230	3	0	3
購読会員	22	22	1	1	0
維持会員	38	36	0	2	△2
計	287	288	4	3	1

#### 2. 入退会館園

区 分	館 園 名	備 考
入 会	牛の博物館	正会員
	きしわだ自然資料館	正会員
	ゴールドパーク串木野	正会員
	南 夏樹	購読会員
退 会	東和科学(株)	購読会員
	(株) パリスアート工房	維持会員
	創和科学(株)	維持会員

#### 3. 正会員の設置者別内訳

区 分	館数 (%)	館数 (%)	増減	
				平成8年 第1回総会時
国 公	1 国	7 (3.1)	7 (3.0)	0
	2 都道府県	47 (20.7)	47 (20.4)	0
	3 市町村	92 (40.5)	94 (40.9)	2
私	4 財団法人	25 (11.0)	25 (11.0)	0
	5 株式会社	37 (16.3)	38 (16.5)	1
	6 個人	4 (1.8)	4 (1.8)	0
	7 社団法人	2 (0.9)	2 (0.8)	0
8 その他	13 (5.8)	13 (5.6)	0	
計	227 (100.0)	230 (100.0)	3	

# 平成9年度全国科学博物館協議会事業計画

## 1. 管理運営

### ①理事会

年2回開催する。第1回は平成8年度事業報告及び収支決算報告等について審議する。第2回は平成10年度の事業計画(案)及び収支予算(案)等について審議する。

開催時期 会場

第1回：平成9年6月下旬 国立科学博物館

第2回：平成10年3月上旬 ミュージアムパーク茨城自然博物館

### ②総会

年2回開催する。第1回は平成8年度事業報告及び収支決算報告等について審議する。第2回は平成10年度の事業計画(案)及び収支予算(案)等について審議する。なお、総会時には、記念講演・施設見学会等を行う。

開催時期 会場

第1回：平成9年6月下旬 国立科学博物館

第2回：平成10年3月上旬 ミュージアムパーク茨城自然博物館

## 2. 事業

### (1) 研修事業

#### ①博物館職員現職研修(ミュージアム・マネジメント研修)

博物館経営に関する資質向上を図るため、生涯学習時代における博物館の役割、博物館経営の視点等の講義、討議を行い、博物館経営者としての力量を高める。

実施時期：平成9年12月2日(火)～5日(金)

【予定】(4日間程度)

参加者：40名程度(正会員)

会場：国立科学博物館等

備考：国立科学博物館共催

#### ②学芸員専門研修(アドバンスト・コース)

博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等について専門的、実践的な研修を行う。

実施時期：平成9年10月27日(月)～31日(金)

【予定】(5日間程度)

参加者：30名程度

会場：国立科学博物館等

備考：国立科学博物館共催

#### ③海外科学系博物館視察研修

オーストラリア・ニュージーランドの科学系博物館における展示技術、教育普及活動等について視察研修を実施する。

実施時期：平成10年1月(2週間程度)

参加者：20名程度

訪問館：パワーハウス博物館など6館程度

### (2) 連携促進事業

#### ①研究発表大会

博物館活動の充実に資するため展示、教育普及活動、研究活動等に関する成果について、発表及び研究協議を実施する。

実施時期：平成10年3月上旬【予定】

参加者：正会員、維持会員

会場：ミュージアムパーク茨城自然博物館

#### ②共同企画展等調査研究

加盟館園の巡回展を含めた企画展等の実施状況について調査結果を報告書としてまとめるとともに、データベース化し、インターネット等を利用して加盟館園情報の相互活用を促進する。さらに、共同企画展等の実現に向けた方策について調査研究を行う。

実施時期：平成9年4月～平成10年3月

委員：7名程度

#### ③科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究

科学系博物館が有する標本資料に基づいて、日本の生物等に関する全国的なデータベースを構築するため、データベースの標準フォーマット作成に関する調査研究を実施する。

平成9年度は、新たに理工系に関する部会を設置する。

実施時期：平成9年4月～平成10年3月

委員：18名程度(自然史11名・理工系7名)

#### ④事業等に対する共催・後援等

加盟館園や関係機関等が実施する事業で、全科協の設置目的に適合し、適当と認められる事業に対し共催・後援等を行う。



(3) 広報普及事業

支 出

予 算 額

①機関紙の発行

機関紙「全科協ニュース」を年6回、A4版12ページ各号1,400部を発行する。なお、特集記事は、特集記事担当館が担当する。

②全科協ホームページの運営

全科協ホームページの充実を図るため、全科協ホームページの内容の充実を行うとともに、新たにホームページを開設した加盟館等のリンク作業を実施する。

また、データ更新のため「加盟館園の現況調査」を実施する。

③入会案内及び広報活動

新設の科学系博物館等に対して入会の勧誘を行うほか、全科協の活動について、パンフレットを作成し、関係機関、団体及び企業等に対し広く広報を行う。

理事会・総会費	342
博物館職員現職研修費	250
学芸員専門研修費	216
海外科学系博物館視察研修費	10,600
研究発表大会費	813
共同企画展等調査研究費	769
標本資料データベースの標準化に関する調査研究費	1,670
全科協ニュース発行費	2,233
入会案内及び広報活動費	337
ホームページ運営費	300
予備費	441

支出合計 17,961

全科協平成9年度収支予算について

平成8年度予算の補正について

(総括表)

科 目	予 算 額
	(単位：千円)
一般会計事業費	17,961
(一般会計事業)	
収 入	予 算 額
	(単位：千円)
前期繰越金	685
会員会費	5,286
参加費	10,250
・海外科学系博物館視察研修参加費	10,000
・研究発表大会参加費	250
雑収入	740
・広告料	720
・預金利息	20
寄附金	1,000
収入合計	17,961

1. 補正理由

平成8年度において、当初予算編成後に文部省等からの補助金等による事業の追加及び拡充が図られたので平成8年度予算を補正することとしました。

収入については、①会員数の増加に伴う会員会費の増収等により見込額を、また、②文部省からの委嘱事業費として3,500千円及び文部省補助金として2,500千円、カメイ社会教育振興財団からの助成金として3,600千円の交付があったのでそれぞれ収入に補正計上します。

支出においては、研究発表大会と共同企画展等調査研究について、文部省からの補金等を財源に事業規模を拡大し、研究発表大会については2,018千円、共同企画展等調査研究については1,083千円を補正計上します。

また、標本資料データベースの標準化に関する調査研究については、文部省からの補助金を財源に事業規模を拡充するとともに、カメイ社会教育振興財団の助成金を財源にフランスの国立自然史博物館と英国の自然史博物館における標本資料データベースの開発状況の調査研究を行うこととして4,600千円増の7,832円を補正計上しております。

## 第4回全科協研究発表大会を開催

－ 3月6日(木)～7日(金)－

会場：鳥羽水族館

3月5日(水)三重県鳥羽市にある鳥羽水族館を会場に開催された平成8年度第2回総会終了後、文部省生涯学習局社会教育課地域活動推進室長の徳増有治氏から平成9年度文部省博物館振興施策の紹介がありました。

平成9年度文部省博物館関係予算等の主な項目は次のとおりです。

1. 学習活動支援設備整備事業
2. 科学系博物館活用ネットワーク推進事業
3. 社会教育研修支援事業
4. 博物館学芸員等専門研修
5. 社会教育関係有資格者の積極的活用に関する調査研究
6. 私立博物館に対する支援措置の拡充

引き続き、全科協平成8年度活動報告に移り、はじめに共同企画展等調査研究委員会報告として名古屋市科学館学芸課長の三輪 克氏がこれまで数年間の同事業の経過と巡回展、共同企画展を実施する際の問題点について明らかにするとともに、今後の方向性について発表し、特に実現に向けた科学系博物館の努力を呼びかけました。

次に平成8年度から新たに始まった科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究委員会委員である北九州市立自然史博物館学芸員の上田恭一郎氏から、この調査研究事業の趣旨及び今年度の活動内容、特に、今年度実施したアンケート調査結果の概要と今後の課題について報告がありました。また、今年度フランスの国立自然史博物館及び英国の自然史博物館の標本資料データベースの構築状況について調査を実施した旨報告がありました。

3番目として、海外科学系博物館視察研修事業の報告を齋藤報恩会自然史博物館専務理事の齋藤温次郎氏が行いました。この事業は平成8年度で13回目を迎えたもので、事業の目的やこれまでの訪問実績に合わせ、今年度実施された英国、フランス、ドイツの科学系博物館視察研修の概要について報告がありました。

最後に全科協情報ネットワークの運用について事務局から国立科学博物館普及部の志津田嘉康博物館情報専門官が全科協の情報化の現状及び今後の取組みと課題について報

告しました。特に、現在のインターネット等の浸透など情報化社会の中における博物館の役割の重要性に触れ、全科協情報ネットワークの強化について加盟館各位の理解と協力をお願いしました。

翌6日(木)の第2日目は、まずはじめに国立科学博物館の塩谷次長の開会挨拶の後、会場館の鳥羽水族館から中村館長が挨拶されました。また、来賓として出席された鳥羽市教育委員会の叶成(かなり)社会教育課長が挨拶されました。

続いて、本研究発表大会のテーマである「理科離れと科学系博物館の取組み」について事例発表が行われました。

まず、愛媛県総合科学博物館学芸課長の西山慶尚氏が、「展示・教育普及活動の充実策」について小・中・高校の理科離れの実態を分析し、その対応を含めた愛媛県総合科学博物館の取組みについて発表しました。

次に会場館である鳥羽水族館の中村企画室室長が「ホームページによる啓発活動について」と題し、現在急速に進展したインターネットなど高度情報メディアの利用について、博物館とホームページの相性や実際に当館におけるホームページ作成の基本コンセプトを紹介し、今後の博物館におけるホームページの可能性について述べました。

続いて、京都市青少年科学センター指導主事の山下正弘氏が「学校と連携した科学センター学習」について、同センターの指導理念、運営方針など同センターの概要について述べた後、同センターにおける特色ある学校教育との連携事業について発表がありました。

午後には、学術情報センター所長で文化勲章受賞者である猪瀬 博先生が『理科離れと科学系博物館への期待』と題して、理科離れ現象の歴史的背景や社会的背景を分析したうえで、科学系博物館が進むべき方向性について提言されました。

その後、事例発表を行った3氏の司会のもとで事例発表の3テーマに分かれて研究協議が行われました。その討議内容のまとめを国立科学博物館の大堀 哲教育部長の進行で行いました。

最終日7日(金)の施設見学は、鳥羽水族館、真珠博物館、神宮徴古館のうち、参加者の選択見学として実施されました。

この研究発表大会に全国の加盟館等から127名の方が参加されました。



## 海外ニュース

安井 亮 (ハイフォン)

**新設館・施設の増改築などアムステルダム技術博物館、1997年6月に新装オープン**

1996年12月に閉館されたアムステルダム技術博物館 (旧名: IMPULS Science & Technology Center/ Technologie Museum NINT) は、新しくニューメトロポリス科学技術館 (newMetropolis, Science & Technology Center) として、同市のウォータフロント地区で1997年6月に新装オープンする。新施設の展示テーマは、「人類のコミュニケーション技術」、「道具の世界」、「地球のエネルギー資源」、「地球の自然」、「生物としての人間工学」。同館のホームページで、建物や展示の完成予想図 (一部、ムービー) が見られる。

**米ヘッドウォーターズ科学館、ミシシッピ河の健康度を監視する研究室を開設**

米連邦政府、ミシシッピ州、ベミジ市等の補助金を受けて、ミシシッピ河の健康度を常時監視する研究室が1997年2月に開設された。ミシシッピ州ベミジ市。

**新しい展示の動向****米イサカ科学館、パズルに関する企画展がオープン**

企画展「マインドベンダーズ」では、入館者は難易度の異なる様々なパズルに挑戦でき、問題解決力を磨くことができる。展示は全て同館のボランティアがつくった。展示面積: 75m<sup>2</sup>。1997年4月13日まで。ニューヨーク州イサカ市。

**Mindbenders メキシコ・パパロテ科学館、メキシコ全土の動植物の分布を紹介する常設展示をオープン**

メキシコ全土は、湖沼、砂漠、高湿度森林、熱帯乾燥林等の多様な自然をもっているが、同館で開館3周年記念事業として、メキシコのそうした全土の動植物の分布を紹介する常設展示をオープンした。展示面積: 280m<sup>2</sup>。15台のマックより構成されたインターネット・ホールも同時に設けられた。メキシコ・シティ。

**ハリスバーグ科学博物館、建築に関する常設展をオープン**

ゴシック調の教会がどのように作られるのか、地震発生装置を使った建物の倒壊実験、三角測量法を使った建物の高さの計測や建築業界の様々な職種をも紹介したユニークな常設展示が、ハリスバーグ科学博物館に1996年10月にオープンした。展示面積: 110m<sup>2</sup>。ペンシルバニア州ハリスバ

ーグ。

**カーネギー科学館、地震に関する常設展をオープン**

常設展示「クエーク・クエスト」(Quake Quest) は、地震発生装置を使って、部屋の揺れ、地震の疑似体験や最新の地震予知技術を紹介したものだ。1996年11月にオープン。展示面積: 325m<sup>2</sup>。

**ローレンス科学館、先端技術を使った犯罪学の最新情報を紹介する企画展をオープン**

企画展「ケムミストリー」(ChemMystrey) は、クロマトグラフィーを使ったインクの特異性、指紋のDNA検査を使った犯人探し、筆跡鑑定の実例等の事例を挙げて、犯罪学の最新情報を紹介したものだ。展示面積: 280m<sup>2</sup>。1997年9月まで。

**新しいインターネット・ホームページの開設動向**

new Metropolis (Amsterdam, Netherlands)

<http://www.newmet.nl/index2.html>

Hong Kong Science Museum (Hong Kong, UK)

[http://www.uc.gov.hk/sci\\_mus/](http://www.uc.gov.hk/sci_mus/)

Papalot - Museo del Nino (Mexico City, Mexico)

<http://www.papalote.org.mx>

Science Centre & Manawa tu Museum (Palmerston North, New Zealand)

<http://www.pncc.govt.nz/comps/scmm/htm>

Family Museum of Arts and Science (Bettendorf, USA)

<http://www.qconline.com/arts/FAMILY/>

International Museum of Surgical Science (Chicago)

<http://www.imss.org>

Maryland Science Center (Baltimore, USA)

<http://www.access.digex.net/~mdsci/>

Odyssey Science Center (Tallahassee, USA)

<http://www.scri.fsu.edu/~odyssey/>

Schenectady Museum & Planetarium (Schenectady, USA)

<http://www.abm.com/museum/>

\*ハイフォン: Fax.03-3496-2146

E-mail.QFH03327@niftyserve.or.jp



# 全科協第13回海外科学系博物館視察研修報告(その1)

## 自然史博物館 (ロンドン)

### ○管理・運営について

自然史博物館の歴史は、大英博物館に自然史部門が1753年に設置された時に始まる。現在の建物は、1881年に自然史部門を独立して展示するための施設として設立され、すでに100年が経過している。1963年には理事会も別々になり、組織としても独立して「自然史博物館」と改称し、現在に至っている。

財政面は、年間予算が3800万ポンド(68億円)である。この博物館は国立であるので国からの収入が大部分であるが、自己収入も予算の30%を占めている。

組織は、館長のもと、教育・科学・管理・開発の4部局に分かれている。運営にあたっては、理事会のもとに9部門が組織され、5部門がコレクション、2部門が一般渉外、2部門が管理・財務を担っている。

職員は事務・学芸員・研究員に分かれている。資料の維持・保全に専念する学芸員と、調査・研究に専念する研究員との職域ははっきりと区別されているが、現実の仕事では両者の境が曖昧なところもある。

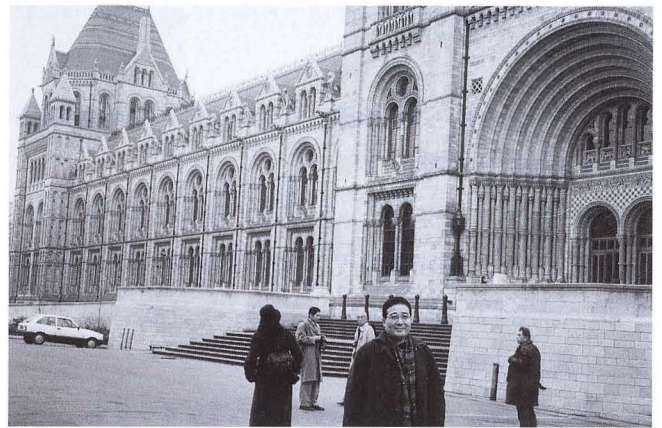
この博物館の主な役割としては、先ず、動物・植物・古生物・鉱物等のコレクションの管理があげられる。6800万点の資料の保存、管理が大きな仕事になっている。学芸員350人が標本の管理にあたっているが、予算面の制約もあり、標本の整理もなかなかかどらない。また、寄贈がたくさんあって収蔵スペースが不足している。

次に、見学者へのサービスがあげられる。展示面積が約3万㎡と広いため、年間150万人の見学者に十分なサービスを行うことは大変な仕事であり、全職員750人が対応にあたっている。

特徴的なことは、大英博物館では入館料が無料なのに対して、自然史博物館では入館料を徴収していることである。国からの予算が削減され、サービスの低下か、自己収益を上げるか、選択を迫られたためである。そこであえて有料化し、設備・サービスの向上に努めることにした。有料化によって職員・スタッフの見学者に対する意識が大きく変わってきた。無料の頃は見学者は汚す、うるさいなど、い

わば迷惑な存在であったが、今では大切なゲストとして迎え入れることとなったのである。

有料化以前はレストランやミュージアムショップの在り方などはほとんど省みられなかった。しかし、現在では重要課題となるなど、入館者に対するサービスについての認識が大きく改められ、サービスの満足度を常に見学者から聞くことに努めている。また、展示内容についてもどういふ人が何を求めて来館するのか調査し、理解することに努め、入館者のニーズを参考にした展示を心がけている。



自然史博物館外観

### ○展示について

展示面積は約3万㎡で、標本資料を6800万点収蔵している。標本資料に関して、購入することはほとんどなく、世界各地における調査の中から蓄積していったものや、交換・提供されたものが多く、200年という歴史の重みを感じられる。

展示方針は、ただ単に展示するだけでなく、一般の人を対象に自然史・生物史をわかりやすく展示をすることと、入館者数の12~15%になる児童・生徒等の学校教育用のサービスである。

常設展示は20年間もつことを基本にし、教育上意義あるものにしていく。つまり、自然史・生物史を理解してもらうため、そのプロセスやコンセプトを重視している。

一方で、長い間常設展示のみであったが、ここ数年特別展示や移動展示に力を入れ始めている。それは、特別展示により新しい科学情報を一般に普及でき、また、リピーター対策として役立つと思われたからである。入館するごとに「新しい展示がみられる」ということは、入館者にとっ

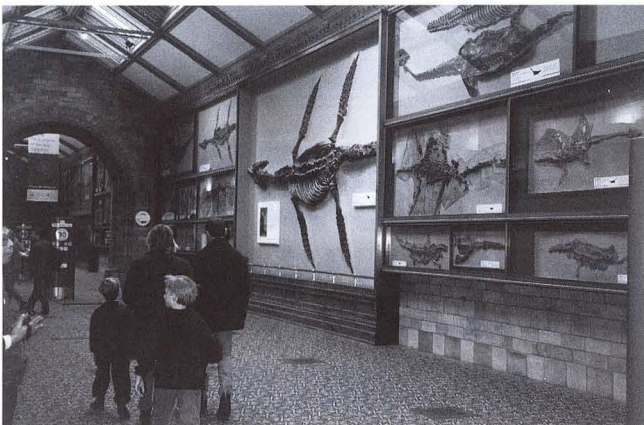


で魅力的であり、また、博物館にとっても入館者対策として役立っている。実際、人気のある特別展示を実施すると年間の入館者数が大きく増えている。家族連れでの滞在時間は2～3時間であり、一度には全部を見ることはできないので、年に数回訪問するように奨励している。夏の観光シーズンに雨が多くと入館者数が増えるそうである。

最近では動く展示が多く、動かないと意味をなさないので、その維持管理に対して予算面等、多大な労力を費やしている。特にこの動く展示が入館者に評判がよい。

メンテナンスに関しては、1チーム8人、3チームを編成して毎日の点検を行っている。

博物館の歴史の古さを生かしながら、入館者に対して分かりやすく、そのうえ効率よく展示している。例えば、建物を有効に使うため中2階の通路や、コンピューターを使った動く恐竜などは小さな子ども達も興味を持ち、面白くわかりやすい展示である。また、1995年におこった阪神大震災を、地震のないヨーロッパの人々に経験させるため、早速地震コーナーを作り体験させている。



廊下壁面の化石展示

### ○教育普及活動について

年間の入館者は約150万人で、うち12～15%が学校関係の入館者である。イギリスでは学校教育のカリキュラムの中に博物館での学習が組み込まれている。そのため、学校からの引率が多く、学校関係の教育支援に非常に力を入れている。

以前、学校団体は館の職員が案内をしていたが、1日に1500人という生徒が来館することもあるために、すべてに対応するには職員数が足りず、また、非効率になったために仕組みを変更している。つまり、生徒を直接サポートするのではなく、先生をサポートするシステムに移行したのである。

現在では、先生は博物館を教材として積極的に利用するようになり、博物館での学習と学校での学習を効率的に結びつける工夫をしている。教育部門のスタッフは、引率してくる先生に対して事前に博物館に関するいろいろな情報を説明し、利用方法などのアドバイスをしている。そして、先生はそのアドバイスに基づいて学習カリキュラムにあった説明を生徒にしている。

この他にも園児など小さな子供たちのための教材を作り、ツアーも行っている。また、ティチャーズセンターでも色々なワークシートを作成し、利用の便をはかっている。

特に、親子体験教室は一般の展示と違い、各親子と博物館職員とのコミュニケーションがはかれ、また、障害者に対しての教育も可能であり素晴らしいと思う。

このように多様な教育普及活動を展開しているが、積極的に宣伝して募集をかけることなどはしていない。

### ○友の会・ボランティアなど

友の会は3年前から始めている。現在の会員数は5,000人であるが、友の会向けのイベントを企画したりして、会員増をはかっており、目標は1万人である。博物館にとっての友の会会員の重要性は国会に対するロビー活動やボランティアとして奉仕活動をしてくれるところにある。

ボランティア制度は職員とボランティアとの関係をはっきり分け、仕事の内容はその人の能力により分けている。

ボランティアに対するトレーニングは常に行っており、また、友の会の会員だと入りやすくなっている。



自然史博物館の職員とのミーティング風景



## 「科学博物館等における公開天文台情報を活用した展示・教育普及活動に関する調査研究委員会」の活動報告

科学博物館等における公開天文台情報を活用した展示・教育普及活動に関する調査研究委員会は平成8年度計3回の委員会を開催しました。詳細は下記のとおりです。

—記—

### I. 開催日時

#### 第1回委員会

日時 平成9年1月29日(水)

場所 国立科学博物館 新宿分館

#### 第2回委員会

日時 平成9年2月19日(水)

場所 大阪市立科学館

#### 第3回委員会

日時 平成9年3月26日(水)

場所 国立科学博物館 上野本館

### II. 委員

委員名	所 属
石川 博幸	府中市郷土の森博物館
伊藤 直一	札幌市青少年科学館
加藤 一孝	広島市こども文化科学館
西城 恵一	国立科学博物館
洞口 俊博	国立科学博物館
渡部 潤一	国立天文台
渡部 義弥	大阪市立科学館

### III. 内容

- これまでのPAO(公開天文台情報)の活用事例について、学校、天文台、プラネタリウムなどでPAOの画像を加工して活用されている例が多く、人の手を使わず画像データを全自動で展示に生かされている例はない。
  - ・PAOの画像はカラーのプリントアウト、スライドでの利用であり、既存のメディアへ変換して利用している。
  - ・PAOの画像の加工は手間がかかるので、いかに手間を省くかが今後の課題である。
- PAO(公開天文台情報)の活用事例の調査研究
  - ・上記の報告をふまえて、全科協加盟館を中心にPAO(公開天文台情報)の活用事例の現況を調査する。

調査対象館を約20館とし、各委員が分担して調査にあたった。

- ・最新のプラネタリウムではパソコンの画像をダイレクトに投影できる設備を備えている。そのため直接PAOの画像を利用可能である。即時性を求められる天文情報に有益である。

- ・PAOの画像の利用方法として、カラーの天体画像をしおりに印刷して、天体観望会などでの記念品として使われている例があった。

- 上記の成果をふまえて、報告書を作成する。



## COLORATA

Venture Into The Past    The Living Earth    Communication For The Future

**ミュージアムグッズの企画・デザイン**

カラータ株 〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F  
TEL 03-3865-8110    FAX 03-3864-4049

# 感動環境 創造会社です。

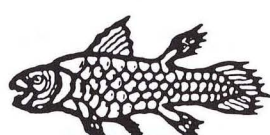
## NOMURA

株式会社 乃村工藝社  
本社: 東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171(代) 〒108  
営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティ  
ング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

美術

## はく製

〈各種生物〉  
剥製・骨格標本・レプリカ  
加工/販売/リリース



**東洋近代美術研究所**

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎047-337-5678  
☎047-337-5883  
FAX 047-338-1978  
本 社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564



## サイコム・プロジェクト—国立科学博物館と NTT の共同。プロジェクト—について

国立科学博物館では、NTT との共同プロジェクト(サイコム・プロジェクト)として、4月1日から、当館が行っている実験観察プログラムをインターネットを通じて提供します。中教審答申等で、体験的な理科学習の必要性が説かれておりますが、五感を使って体験する学習を支援するための情報を全国の学校や家庭等に提供します。これにより先生や生徒はもとより、どなたでも、どこからでも、いつでもインターネットを利用して博物館のもつ優れた実験・観察のストックを手に入れることができます。

1 サイコム・プロジェクト (Science communication project) は成長します。

- 当館の観察センターの36のユニークな実験・観察プログラム(年間500回 35,000人に提供、プログラムは年々増加していきます)について、4月1日当初は7テーマで開始し、順次拡充します。
- 当館の各研究部の協力を得て、川原の小石の観察、磯の生物等の野外観察プログラムを「自然観察マップ外へ出て観よう!!」としてホームページの中で公開していきます。
- 学校や博物館、家庭から自由に参加し、自然科学に関する疑問や新しい発見、身近な情報を交換しあえる場(電子コミュニティ)として、「自然科学サイバーコミュニティサイコム情報局」の準備を進めています。
- 全国科学博物館協議会(博物館事業の振興を目的に全国の科学系博物館等230館が加盟する協議会)などの協力を得て、博物館ならではの自然科学分野に関する実験/観察のプログラムなども収集蓄積し、内容の充実を図ります。

2 国立科学博物館では電子博物館プロジェクトを進めています。

当館では、最新のマルチメディアを活用した博物館機能の高度化・情報化に関する検討及び開発を行っており、220万点近い標本資料のデータベース化、館内を仮想体験できるようなバーチャルミュージアム等の開発を進めています。

また、ネットワークを利用した自然科学教育の高度化を図ります。サイコム・プロジェクトもその一環です。

3 実験ホームページを呼び出すには

ホームページを呼び出す URL は

<http://scicom.kahaku.go.jp> となっております。

なお、当館のホームページ <http://www.kahaku.go.jp> からリンクしております。

### 本件に関するお問い合わせ

国立科学博物館普及部普及課

担当：志津田 電話03-5814-9860

(e-mail [sizuta@kahaku.go.jp](mailto:sizuta@kahaku.go.jp))

全テーマリスト

[実験バンク](#) [プログラム検索](#) [全テーマリスト](#)

### 実験/観察プログラム

全テーマリスト

最終更新日: 09:52 PM Friday, March 28, 1997

	<b>001「電池をつくろう」</b> <small>※</small> 家庭にある材料を使って電池をつくることにより、科学を身近なものと感じる
	<b>002「髪の毛の観察」</b> <small>※</small> 髪の毛の性質を知り、構造を理解しよう
	<b>003「グライダーの製作」</b> <small>※</small> 飛行する物体にはたらく揚力のしくみを理解する
	<b>004「大気のカ」</b> <small>※</small> 大気の実在を実感しよう
	<b>005「頭の骨を調べてみよう」</b> <small>※</small> 脊椎動物の頭骨を観察し、生活の仕方や食性とのかわり考える
	<b>006「ヒメスナホリムシの観察」</b> <small>※</small> ヒメスナホリムシの生痕から過去の海岸線の方向を推定しよう
	<b>007「レプリカをつくろう」</b> <small>※</small> レプリカを作り、化石に興味を持とう

[利用登録をする](#) | [実験/観察プログラムの検索をする](#)

[実験バンクの最初のページへ戻る](#)



## きしわだ自然資料館

〒596 大阪府岸和田市堺町6番5号 TEL.0724(23)8100 FAX.0724(23)8101

平成7年6月1日に開館した当館は、岸和田城の近くの城下町の風情がのこる紀州街道添いにあります。建物前面外観デザインは、大正末期に当地にあった銀行のセセッションスタイルを模したものです。

岸和田の自然について紹介する常設展示室は2階、各方面から寄贈された標本類などを展示する収蔵展示室は3階にあり、とくに2階に設置している来館された方などから持ち込まれる身近な自然資料を、リアルタイムに展示する「発見ボックス」や、植物や昆虫のぬり絵や笹舟などを作る「体験コーナー」は好評です。

また当館では泉南の自然の特色を活かした講座を毎月いろいろ行っています。特に大阪府下で最大の水揚げ量を誇る岸和田漁港での「漁港たんけん隊」や、和泉層群での「化石の達人」、そして市民参加の「ツバメの住所録づくり」は当館の名物行事となりつつあります。

関西国際空港の開港により、開発が急速に進む泉南の自然を少しでも、知ってもらいたいと考えています。

(事業など) 平成8年度事業内容

春季特別展 「身近な水辺の野鳥たち」 5月  
 秋季特別展 「和泉の山の化石たち」 10月～12月  
 速報展 「ワニ類化石一般公開」 12月  
 セミナー (年26回) 科学映画会など (年15回)

開館時間 10時～17時

休館日 月曜日・月末・年末年始・9月14・15日

入館料 おとな 200円 小中学生 100円



きしわだ自然資料館外観

## ゴールドパーク串木野

〒896 鹿児島県串木野市下名13665 TEL.(0996)32-5689 FAX.(0996)32-5585

薩摩藩を支え350年の歴史をもつ今もなお、生きた(操業中)三井串木野鉱山の坑道は、総延長120kmあり、その坑道の一部を利用し“カルチャー&レジャー施設”として昭和63年11月に開園いたしました。地底見学は、トロッコ列車(定員 108名)で700m奥へ進入すると、本物の金鉱脈や最新の採掘機械・黄金のピラミッドなど神秘的な黄金の世界が体験できます。

また、地上では、約1800万円相当(約12kg)の金の延べ棒を直に持ち上げる体験コーナーや金の歴史や文化を学術的に展示した「黄金資料館」と大自然のなかでワイルドに体験できるワクワク!ドキドキ!の「砂金採り体験コーナー」、お手持ちの鍵やネックレスなどをその場で純金メッキ仕上げできる「純金メッキ実演コーナー」などがあります。

日常の生活から隔たった“異体験”を大人から小人まで楽しめる希少価値の高い施設であり、鹿児島の新しい観光スポットとして大好評です。

開園時間 9:00～16:00(17:00閉園) 休館日 年中無休

入場料 大人 1300円 中・高生 1000円  
 小人(3才～小6) 800円

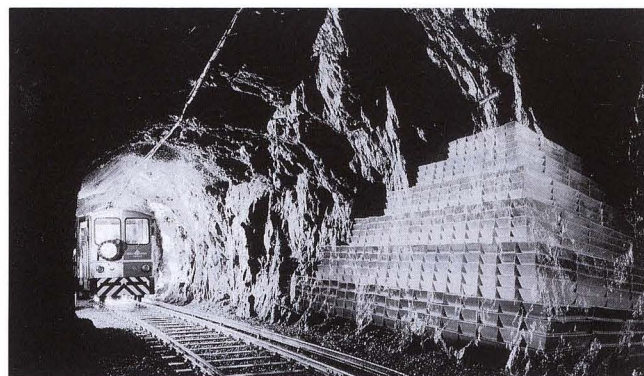
団体割引 30名様以上10%引

付帯設備 レストラン (430名様収容)

ふれあいホール (500名様収容)

パークショップ (おみやげ品売店)

地底を走るトロッコ列車



トロッコ列車



## —加盟館園情報—

## 国立科学博物館

特別企画展「ハイテクにつぼん誕生展—明治の近代化遺産—」の開催について

ただいま当館では、下記のとおり、特別企画展「ハイテクにつぼん誕生展—明治の近代化遺産—」を開催しております。この展示は、今日の日本の科学技術、産業技術の基礎をつくり近代化に大きな役割を果たした幕末から明治にかけての事物（近代化遺産）を各地から集め展示するという全国でも初めての試みです。

近代の文化遺産については、建造物等については登録制度が導入されるなど、近年その保護の重要性が認識されつつあります。青少年の科学離れが社会問題化している今日、先人の築いた産業遺跡や科学技術を体系的に継承していくことは、これらを受け継ぎ新たな思考の中で発展させいくためにも、また世界的にも高度な水準にある日本の科学技術水準を今後も維持していくうえでも大切なことです。そういった気運の盛り上がりを受け関連テーマの行事も各地で開催される予定です。

—記—

[会 期] 平成9年3月4日(火)～6月22日(日)

[会 場] 国立科学博物館 むらさき館 1～2階  
東京都台東区上野公園7-20

[主 催] 国立科学博物館

[後 援] 通商産業省、建設省、文化庁、イギリス大使館  
東京・神奈川・千葉・埼玉・群馬各県教育委員会、全国科学博物館協議会

[協 力] 東京大学工学部・工学系研究科、(社)日本建築学会、(社)土木学会

[入場料] 個人 一般 790円 小・中・高生 250円  
団体 一般 530円 小・中・高生 130円  
(団体は20名以上)

[問い合わせ先] 国立科学博物館普及部普及課

〒110 東京都台東区上野公園7-20

Tel 03-5814-9857

国立科学博物館理工学第4研究室

Tel 03-5332-7162

## 栃木県立博物館

第59回企画展「動物仲遺問の人気者～恐竜からカブトムシまで～」

自然が生みだした動物たちの形や色には、目を見張るものがあります。その姿を目の当たりにして受ける感動こそ古今東西多くの人々の自然への関心の原点となり、また自然史学の発展の原動力となってきました。

今回の展示では、動物への、そして自然への興味をかきたてることを目的に、当館開館以来15年間に収集した資料の中から、大きさ・形・色など、いろいろな意味で見人に強い印象を与える動物の標本（化石を含む）を展示し、解説します。また、一部の化石や動物標本については、手で触れられるコーナーを設け、実物の感触を味わっていただきます。さらに、身近な小動物の生体展示も行います。

—記—

[会 期] 平成9年3月4日(火)～6月22日(日)

[会 場] 栃木県立博物館2階企画展示室

[所在地] 宇都宮市睦町2-2 (JR宇都宮駅下車、関東バス⑭番ホーム37桜通り経由鶴田行「中央公園博物館前」)

[内 容] 恐竜などの昔の動物や現在の様々な動物を通して、自然のふしぎ・魅力を物語ります。

[開館時間] 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

[休館日] 月曜日(5月5日は開館)、4月30日、5月6日

[入館料] 一般200円、大・高生100円、中・小生50円

※6月14日(土)・15日(県民の日)は無料入館

※毎月第2・第4土曜日の小・中学生の入館は無料

[問い合わせ先] 栃木県立博物館自然課

Tel 028-634-1314

**恐竜マグ**



\* ミュージアム・ショップグッズの企画・製作・販売 (マグカップ、Tシャツetc.)  
\* 特設売店の代行

あたたかい飲みものを入れると骨格図にかわります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555  
FAX 03-3467-6568

〒151 渋谷区富ヶ谷1-17-9  
パークハイム302

INTERIOR EXTERIOR DESIGN EQUIPMENT  
**ONY KOBO CO.,LTD.**  
東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル  
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館  
企画・設計・施工

Practical Specimens for Study of Earth Science

地学標本(化石・鉱物・岩石)  
古生物関係模型(レプリカ)  
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け継ぎます。)

大英博物館/恐竜復元模型  
縮尺:実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

**TEL 03-3350-6725**  
上京時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

(特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にぜひご利用くださいませ)

Fossils, Minerals & Rocks  
株式会社 **東京サイエンス**  
本社 〒150 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル  
TEL 03-3350-6725 FAX 03-3350-6745  
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL 03-3354-9433

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしております。

編集後記

3月号の編集は、国立科学博物館が担当しました。今回は、兵庫県立人と自然の博物館の担当です。ご期待ください。

**感じる科学**

**動刻**

▲恐竜ロボット  
ティラノサウルス

▲人体型ロボット  
コスモ博士(国産科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

**kokoro** 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号  
TEL 0425(30) 3911(代)・3939(営業)  
FAX 0425(30) 3900・3927(営業)